

通信・放送の総合的な法体系に関する
検討委員会(第9回)
ヒアリング(伝送サービス規律)資料

2008年10月21日

株式会社 放送衛星システム



B-SATの概要

会社名 株式会社 放送衛星システム(略称:B-SAT)
Broadcasting Satellite System Corporation

設立 平成5年(1993年)4月13日

資本金 150億円

代表取締役
社長 竹中一夫

従業員数 63名(平成20年7月現在)

主な事業内容

- 受託放送事業

(現在、東経110度に5機の衛星を運用)

BSAT-1a



BSAT-1b



BSAT-2a



BSAT-2c



BSAT-3a



弊社の歴史

1993年 1997年から開発実用衛星BS-3を引継ぎ、BSアナログ放送(ハード・ソフト一致)を実施する放送衛星(BSAT-1a/1b)の調達及び管制・管理を行う会社として設立

〔BSAT-1a/1b 4ch衛星 打ち上げ(1a:1997年 1b:1998年)
設計寿命10年以上〕

1998年 2000年から始まるBSデジタル放送を行う放送衛星(BSAT-2a/2c)の受託放送事業者として予備免許受領

〔BSAT-2a/2c 4ch衛星 打ち上げ(2a:2001年 2c:2003年)
設計寿命10年以上〕

2004年 2007年からBSAT-1衛星を引き継ぎBSアナログ放送(受委託放送制度に変更)及びBSデジタル放送(9chアナログハイビジョン放送跡地)の受託放送事業者として予備免許受領

〔BSAT-3a 8ch衛星 2007年打ち上げ 設計寿命13年以上〕

2007年 2011年からBSAT-2衛星を引き継ぎBSデジタル放送(全12チャンネル)を行う放送衛星の受託放送事業者として予備免許受領

〔BSAT-3b/3c 8ch衛星 打ち上げ予定(3b:2010年 3c:2011年)
設計寿命13年以上〕

BSAT

衛星システムの変遷

[1997年～2007年]

衛星	設計寿命	送信可能 チャンネル数	BSチャンネル割り当て							
			1	3	5	7	9	11	13	15
BSAT-1a	10年以上	4			◎	◎	◎	◎		
BSAT-1b	10年以上	4			○	○	○	○		

[2000年～2007年]

衛星	設計寿命	送信可能 チャンネル数	BSチャンネル割り当て							
			1	3	5	7	9	11	13	15
BSAT-2a	10年以上	4	◎	◎					◎	◎
BSAT-2c	10年以上	4	○	○					○	○



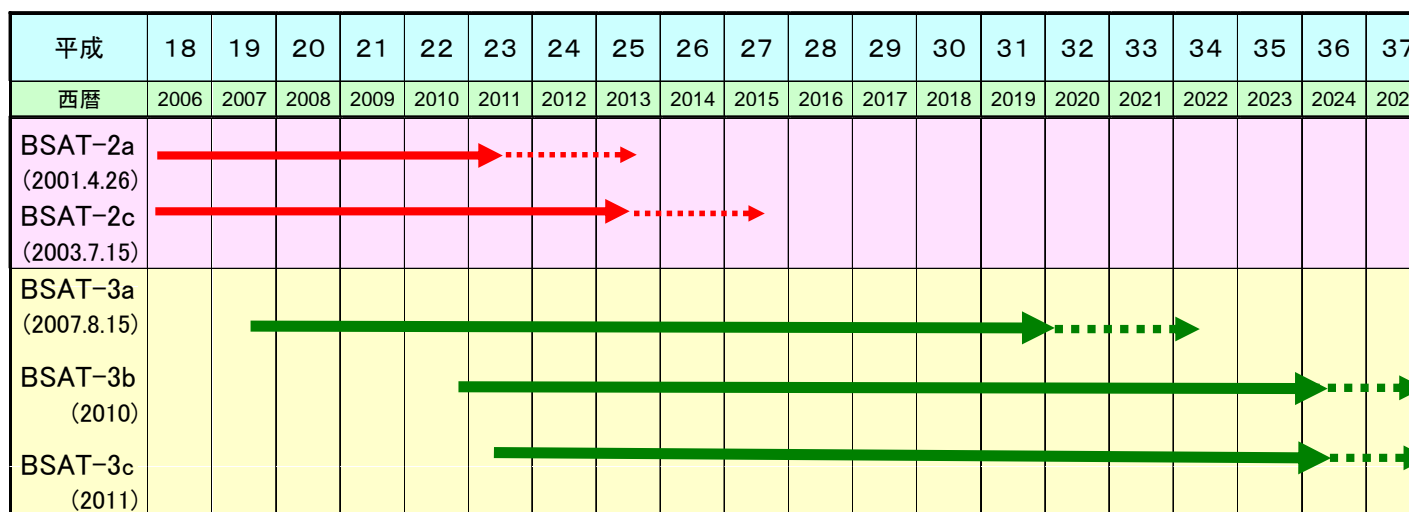
[2007年～2011年]

衛星	設計寿命	送信可能 チャンネル数	BSチャンネル割り当て							
			1	3	5	7	9	11	13	15
BSAT-3a	13年以上	8	○	○	◎	◎	◎	◎	○	○
BSAT-2c	10年以上	4	◎	◎					◎	◎
BSAT-2a	10年以上	4			○	○	○	○		

◎:現用 ○:予備

今後の衛星計画

2011年からの12チャンネル(中継器)のBSデジタル放送開始に向けた2機の放送衛星の調達、管制設備の整備を実施します。これらの衛星の設計寿命は13年以上です。



衛星	BSチャンネル割り当て											
	1	3	5	7	9	11	13	15	17	19	21	23
BSAT-3a	○	○	○	○	○	○	○	○				
BSAT-3b	◎	◎					◎	◎	○	○	○	○
BSAT-3c			◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎	◎

◎:現用 ○:予備

安定的・継続的なBS放送サービスの確保

- ▶ BS放送は、日本全国の不特定多数の視聴者にあまねく番組を届けることから、準基幹放送として位置づけられ、安定的・継続的な放送の確保が要求されてきました。弊社は下記のような特徴を持つ信頼性の高い衛星システムを構築してきました。
 - ▶ 放送衛星は、現用衛星・予備衛星を運用し、軌道上2衛星以上の体制をとっています。
 - ▶ 一つの衛星における中継器構成も、十分な予備中継器を配置しております。
 - ▶ 現用衛星から後継衛星への移行についても、後継衛星の打ち上げ失敗のリスクを考慮し、その代替衛星を調達および打ち上げる期間までの燃料を現用衛星に搭載しております。

なお、信頼性の高い衛星システムの確保は「BS放送に係わる受託放送事業に関する審査基準」にも定められています。

法体系の検討に際して ～1～

BSデジタル放送は、平成12年の放送開始以来、国の衛星放送政策のもとで、準基幹放送として魅力ある番組を提供し続けた委託放送事業者の経営努力と、放送の安定継続に向けた弊社の努力が相まって、受信機は既に4333万台(9月末現在(NHK調べ))以上普及し、視聴者の皆さんに高品質の番組をお楽しみいただいております。

したがって、公共放送、無料放送、有料放送がバランスよく行われるBS放送の社会的影響力は大きく、「基幹放送」に近づいていると言えますし、この点では有料放送が主体のCS放送とは区別して扱われるべきと考えます。

このような点も踏まえ留意していただきたい点を列記します。

法体系の検討に際して ～2～

- 視聴者の皆さんに混乱を与えることなく、この高信頼・高品質のBS放送が安定的・継続的に楽しみいただけることを最優先にご議論いただきたいと考えます。
- BS放送事業を推進している弊社のユーザーが従前の通り事業を実施できるような法体系の検討をお願いいたします。
- 信頼性の高い伝送路を確保するためのBS放送衛星のシステムは、今後も維持されるべきと考えます。